

編集後記

■編集委員

委員長

藤田郁代

副委員長

立石雅子

今井智子

内田信也

宇野彰

勝木準

熊倉勇美

倉内紀子

城間将江

鈴木恵子

関啓子

玉井ふみ

深浦順一

矢守麻奈

地球温暖化を反映してのことか、台風や竜巻による災害が多かった2013年も間もなく暮れようとしています。今春に言語聴覚士として言語聴覚療法の現場に入職された方は目まぐるしく過ごした日々を思い返し、深い感慨を持って年の瀬を迎えられるのではないのでしょうか。

今号には、(社)日本言語聴覚士協会職能部による調査報告「医療・介護施設における言語聴覚士の業務実態について(第2報)」が掲載されています。本報告にありますように、社会保険や介護保険の報酬体系が見直されるたびに、言語聴覚療法の現場はそれに対応した変化を迫られます。現在の改定の方角は回復期リハビリテーション病棟および介護保険における言語聴覚療法の充実であり、長年提供されてきた医療施設における長期的リハビリテーションは今回の報酬体系改定の際に打ち切られる予定です。高次脳機能である言語・認知の障害は長期にわたる言語聴覚療法によって回復する事例が多く、今回の打ち切りはこのような方々に多大な影響を及ぼします。同時に、目前の患者がどのような経過をたどって回復し、各期の言語聴覚士がどのような役割を担うべきかを実践的に学ぶ機会がますます少なくなるものと思います。

若い年齢層で構成される職場が多い本分野では、豊富な臨床経験に裏打ちされた知識・技術を先輩の言語聴覚士から直接的に学べる機会が限られています。そこで今号から各種言語聴覚障害の臨床のあり方について、各領域の第一人者に幅広い視野で解説していただくことにしました。今号には、城本修氏の「音声治療の基本原理」が掲載されていますので、ご一読ください。

今号には、3編の原著論文として高機能広汎性発達障害児の言語(山田有紀氏)、院外心肺停止蘇生後の言語聴覚療法(泉谷聡子氏)、座位と咬合機能の関係(阿志賀大和氏)が掲載されています。また症例報告(脳性麻痺児の哺乳訓練)、短報(中国人失語症の評価・訓練)、レポート「現場、最前線」(摂食嚥下訓練)など興味深い研究報告が満載されています。

来年が皆様にとって平安でよい年になりますよう願います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第10巻 第4号)2013年12月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2013, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)